



雇用は契約

～雰囲気には負けない働き方～

雇用は基本から見直す

「雇用」は民法上の典型契約にも挙げられている紛れもない「契約」であるが、当事者自身が契約内容を把握しておらず、それがさまざまな問題の根源になっていることを鋭く指摘しているのが本書である。

とくに問題視するのが「契約期間」。相当な割合の労働者が、自分が無期雇用か有期雇用か、有期ならいつまでの契約なのかを認識していないというデータを示し、無期転換など適切な権利行使ができずキャリアアップ等にも支障が出るなど職業生活に悪影響をもたらすことを危惧する。

使用者側も取り決めた労働条件を提示しないと違法状態を引き起こすうえ、契約の軽視は雇用のグローバル化の弊害にもなる。労使問わず、契約たる雇用を根本から見直す教材としても適した一冊である。 (玄田有史著、筑摩書房刊、TEL 048-651-0053、1600円+税)

デジタルまゆ知識💡 AI画像生成サービスで広がる世界

「SNOW」というアプリをご存知でしょうか。顔認証システムの一つを取り入れた技術で、AIを利用しています。スマホで自撮りをする時、顔に沿ったメイクなどの仮想のエフェクト（効果）がつけられるので、「冴えないおばさん顔」も「ちょっとおねむのお姉さん顔」として保存することも（おそらく）可能です。

いま「AI画像生成サービス」で作成した画像をSNSに上げている人が多いのをご存知でしょうか。文字（キーワード）を入力するとAIがそれを解析・生成して表示しますが、予想外の画像やイラストが出来上がることも多いため、ギャップをむしろ楽しむ風潮ができています。例えば、「ウミネコ」と文字で入力した結果、海に浮かぶ猫のような生きものが合成された画像になる、といった具合です。想像を超えるものが生成されてしまう現状が、かえって人間の目には新鮮に映るのでしょうか。

今後AIの「学習」が進めば本当の「ウミネコ」が表示されていくことでしょうし、私の母も渾身の一枚が撮れるかもしれません。AIの学習スピードアップに大いに期待したいところです

編集後記

今年の冬は暖冬で過ごしやすい冬でした。寒い日には温かい鍋料理が食べたくなりますが、この冬は鍋料理の出番も少なかったようです。

さて、年明けの1月1日の夕方に発生し、震度7の揺れを記録した能登半島地震では、約240人の死者を出し、約7万棟の家屋に被害が出て、寒波の中、電気・ガス・上下水道などのインフラも打撃を受けたことで、体育館などに避難した住民の方々は大変な苦勞をされたこととっております。

半島特有の地形のためアクセスが制限され、災害救助隊やボランティアの活動も思うように進まず、発生から7週間を経た今も未だ破壊された住宅などは手付かずのままになっているとのこと。一刻も早い復興を祈るばかりです。

海に囲まれた島国日本は、地震、津波、火山噴火、台風などの災害大国、いざという時のために“備えあれば憂いなし”を肝に銘じておきたいものです。

(専務理事 鈴木 寿信)